

「JAF エアロビク競技・採点規則 2017-2020」確認/推奨/連絡事項

1. 公式競技「リフトとコラボレーション」について(p5, 3.6 および 3.7) 【確認】

- ① リフトの際、持ち上げられている選手が下で支える選手の肩位置よりも上の位置を通過したとしても、正確なポジションが認識できなければリフトとはみなさない。
- ② 「コラボレーションの際のプロペリング動作（空中位の段階への放り投げ動作）は不可」とあるが、「馬跳び」のように上に持ち上げられていた選手が下で支えられている選手の身体からフロアに降りるときに僅かに空中位になってしまうものは、コラボレーションでのプロペリング動作とは認識しない。

2. 公式競技「難度エレメント」について 【確認】

- ① C グループ、スプリット・ジャンプ・ファミリーの「スイッチ・スプリット・リープ」の実施の際、実施方法が明らかに違っているものは難度評価点を得られず、実施点においても実施状況に合わせて減点される。
- ② D グループ、ターン・ファミリーの「ターン・ウィズ・レッグ・アット・水平」の実施の際、回転中にフリーな脚が水平位でない場合、難度評価点は得られず、実施点においても「0.3点」の減点になる。
- ③ D グループ、イリュージョン・ファミリーのエレメントの実施において、“ホッピング”とはフロアから軸足が離れ空中に跳んだものを指す。実施の際にコントロールが欠如したことにより、著しく大きなスライドを軸足がしてしまったものもホッピングとみなされる。

3. 公式競技「シニア 2 男女シングル部門」、「シニア 3 男女シングル部門」について 【推奨】

「AMP シークエンス」の中に”8 カウント・コンビネーション”*を 1 回実施することを推奨する。これは、エアロビク・ステップを連結したコンビネーションによりエアロビクで特徴的に見られる動きの反復の美しさ/楽しさを表現するという理由によるもの。ジョギングなど偏ったステップのみの構成でアームズ（上肢）のみを複雑に動かすというのではなく、複数のステップの連結によりエアロビク動作を構成し、下肢と体幹、上肢が連動したエアロビク動作の実施を促すものである。

8 カウント・コンビネーションを実施しているものは、芸術審判員の「エアロビク・コンテンツ」の評価に関して 2 個の「A+」として評価する。(1 回のみ)

*8 カウント・コンビネーション: スタンディングムーブメントのみの 8 カウントのフレーズを左右(右左) 交互にシンメトリーで実施する 16 カウントのステップ・コンビネーション (8 カウント×2)

4. 公式競技「シニア 3 女子シングル」の 2 分化 【連絡】

出場選手の増加に伴い、従来のシニア 3 女子シングル(45 才以上)を、シニア 3 女子シングル A(45～54 才)、シニア 3 女子シングル B(55 才以上)に 2 分化する。